

<トークセッション>

自然と共生する都市を考える ～慶應日吉キャンパスを事例に、 英国の手法を参考に～

慶應日吉キャンパスは、都市域にありながら、まむし谷を中心として港北区・矢上川流域で最大の緑地を擁しており、教員・学生・NPO・市民などによる日常のお世話により、雑木林・水辺や生物多様性の回復が進みつつあります。このような状況の下、慶應日吉キャンパスが、2020年東京オリンピック開催時に、英国チームのキャンプ地となります。これを見据え、グリーンベルト／ナショナル・トラスト／オープンガーデン／バードウォッチングなど英国発祥の緑地を守り・育て・親しむ手法も参考にしながら、英国チームを迎えるにふさわしい、日吉キャンパスの緑地整備のあり方を考えます。さらに、日吉キャンパスの緑地保全を事例として、自然と共生する都市のあり方を展望します。

日時:2018年7月7日(土)9:30～11:30

場所:慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎 中会議室(2F)

※参加費無料・事前申し込み不要

内容:●神奈川のナショナル・トラスト運動と連携した小網代の谷の保全

NPO法人小網代野外活動調整会議 副代表 矢部和弘氏

●首都圏におけるグリーンベルト計画とは

NPO法人鶴見川流域ネットワーク 代表理事 岸由二氏

●日吉キャンパスにおける緑地保全の取組

慶應義塾大学・日吉丸の会 代表 小宮繁氏

主催:慶應義塾大学・日吉丸の会(<https://www.facebook.com/keio.hiyoshimaru/>)

後援:NPO法人鶴見川流域ネットワーク

慶應義塾大学 社会・地域連携室



慶應日吉キャンパスは
日吉丸のかたち



東急みどりリンク
アクションの支援を
受けています